

1. **発表者氏名** 高橋 健

2. **学校名** 福島県立須賀川養護学校郡山分校

3. **発表テーマ**

病気の子どもたちが地域で共に学び、共に生きるためのセンター的機能の在り方
～「地域支援センターさくらぎ」の取組から～

4. **学校概要**

須賀川養護学校郡山分校は福島県のほぼ中央部に位置する郡山市にある。中心市街地の住宅地の中にあり、校庭のない、小さな校舎の外観からそれを学校と見る人は少ない。福島県内にある病弱特別支援学校の本・分校4校の中でも、小学部・中学部合わせて在籍数10名と最も小規模な学校である。また、校舎から徒歩圏内の一般財団法人の総合病院内に病院訪問学級がある。短期間の入院による転入・転出にも対応し、年間20名弱の転出・入がある。

5. **発表概要**

(1) **「地域支援センターさくらぎ」について**

平成22年4月、須賀川養護学校本・分校3校が地域支援センターを立ち上げ、病弱特別支援学校のセンター的機能の充実に努めている。郡山分校に設置された地域支援センターの名称は学校の所在地にちなんで「地域支援センターさくらぎ」とした。

(2) **地域支援を始める前に**

平成15年3月に現在の場所に移転した郡山分校は、地域とのつながりが少なく、学校周辺の住民の理解も十分ではなかった。分校の規模でできることは何かを考え、対象地域を分校近隣の地域を限定して、顔の見える連携を進めた。さらに、長年の課題となっていた、中核市である郡山市との連携も働きかけている。

(3) **地域の一員と認められて**

学校行事の公開や様々な広報活動等を通し、少しずつ学校の存在が知られるようになってきた。日常的に地域の方が学校に来ることが増えたり、地域での活動に招待されたりするようになった。

(4) **地域支援の始まり**

病院に入院する小・中学校児童生徒の転入学がスムーズに行われるように、リーフレットを作成して看護師やソーシャルワーカーに説明した。また、乳幼児とその家族を対象にストレス軽減を図る遊びやリラクゼーションの時間を設けた。次第に病院附属の保育園や看護学校から要請を受けるようになり、教育相談や講義等を行っている。

(5) **特別支援学校間のネットワーク**

県内4校の病弱特別支援学校のコーディネーター連絡協議会を行っている。また、県中教育事務所管内の各障害種別特別支援学校7校のコーディネーター等で行っている地域支援ネットワーク会議を契機に、各校合同によるセミナーを開催し、懸案だった郡山市内の小・中学校等とのネットワークづくりの足がかりを付けることができた。

(6) **広がるネットワーク**

分校が築いてきた「顔の見えるネットワーク」の成果として、郡山市から市主催の会議に委員の推薦を受け、教育、福祉行政関係者との協議の場に参加できるようになったり、震災により開催が危ぶまれたセミナーの講師を無償で紹介していただけて助けられたりした。その講師とは、その後も分校とのかかわりが続き、校内の研修会や懇談会で指導助言をいただいている。

6. **成果と課題**

郡山分校では、地域支援センターが校内の各部と連携しながら活動をしている。このことで、全職員にセンター的機能への参画の実感があると思われる。職員個々の、そして分校としての力を更に高め、地域支援の充実に努めていきたい。また、今後の病弱特別支援学校のセンター的機能の取組には、震災後の子どもたちの状況を踏まえた「体づくり」などの内容を加えることも考えていきたい。